≪秋期≫

受 験 番 号

２０２７年度　大学院心理学研究科「前期博士課程」入学試験 解答

専門科目〔臨床心理学〕

評価	

A　問１

（１）：パーソナリティ症の全般的な特徴について説明しなさい。

パーソナリティ症とは，その人の属する文化から期待されるものより著しく偏った内的体験及び行動の持続的様式であり，それは認知，感情性，対人関係機能，または衝動の制御のうち少なくとも２つの領域に現れる。この持続的様式は柔軟性がなく，個人的および社会的状況の幅広い範囲に広がっており，臨床的に意味のある苦痛や，社会的・職業的・他の重要な領域における機能の障害を引き起こしている必要がある。また，その行動の持続的様式の始まりは，少なくとも青年期または成人期早期にまでさかのぼることができる。

（２）：パーソナリティ症のＡ群、Ｂ群、Ｃ群の特徴を述べるとともに、それぞれの群に含まれる疾患を１つあげ、説明しなさい。

パーソナリティ症のＡ群は，奇異で風変りな行動を示す群である。Ａ群に含まれる疾患として猜疑性パーソナリティ症があり，他人の動機を悪意あるものとして解釈するといった，広範な不振と疑い深さの様式が特徴として見られる。
パーソナリティ症のＢ群は，演技的で，情緒的で，移り気に見えることの多い群である。代表的な疾患としてボーダーラインパーソナリティ症があり，これは対人関係，自己像，感情などの不安定および著しい衝動性の広範な様式を有するものである。
パーソナリティ症のＣ群は，強い不安や恐怖を感じやすい群である。代表的な疾患として回避性パーソナリティ症があり，これは社会的抑制，不全感，および否定的評価に対する過敏さが基本的特徴として見られる。

A　問２

（１）：インテーク面接を行う際に注意すべき事柄について述べなさい。

インテーク面接とは初回に行われる面接を意味する。初めて相談に来るクライエントは，自身の症状や状態についてどのように評価されるのか不安になるとともに，相談先がどのような場所で，カウンセラーがどのような人物であるかといったことにも不安を覚えている。したがって，インテーク面接を行う際には，まだクライエントが自身の症状や状態について話をすることに慣れておらず，不安を感じながら来談していることに注意し，受容的かつオープンな姿勢で面接に臨むことで，クライエントが安心して相談できるよう関わることが望まれる。

（２）：インテーク面接において聴取することが望ましい情報について３つ以上あげ、その理由について説明しなさい。

インテーク面接では，まずクライエントの主訴や，現在の困りごとについて聴取する必要がある。インテーク面接の主要な目標として，自身の所属機関がクライエントの希望に応えることができるか否かを判断することがあげられる。したがって，主訴や困りごとについて聴取することで，クライエントが面接に求めていることを明確にし，所属機関で受理できるか，それとも他機関にリファーすべきかを判断することが必要である。
次に，クライエントの成育歴（生活歴）があげられる。現在起きている現象について理解するためには，これまでクライエントがどのように過ごしてきたかを把握することが非常に重要である。したがって，現在起きている問題だけでなく，それに至るまでの成育歴（生活歴）についても聴取することが，早期の適切なアセスメントのために有効である。
最後に，家族関係があげられる。家族は個人が所属する最も身近な集団であるとともに，毎日関わる存在である。そのため，クライエントの生活を支える重要な資源であるとともに，主要なストレス源ともなり得る。インテーク面接を通じたアセスメントと支援方針の策定のためには，家族との関係性についても明らかにすることで，クライエントの困りごとだけでなく，クライエントが有する社会的な資源の量や質についても把握することが必要である。

B　問 1

（1）：集団療法の特徴について、個人療法との違いを踏まえて説明しなさい。

※下記のような点を述べていること

集団内の相互作用を治療資源として活用する心理療法。

治療者との一対一の関係の関係ではなく、メンバー間の相互作用による変化の促進を重視。

（2）：集団療法の利点について、ヤーロム（Irvin D. Yalom）の代表的な治療因子を用いて述べなさい。

※下記のような点を述べていること

ヤーロムの代表的治療因子

普遍性（孤独感解消）、希望の喚起（自分も良くなれる）、

集団凝集性（所属感や受容されている感覚）、

対人学習（他者からのフィードバックを受け、自分の対人関係の特徴や影響に気づく）、

利他性（他者を支援する経験を通して自分の存在価値や自己効力感を高める）

B　問 2

面接中にカウンセラーがクライエントに対して強い感情が起こった場合に、①この状態をどう理解すべきか、②面接中にどう扱うべきか、③面接後にどうすべきかの 3 点に分けて説明しなさい。

※下記のような点を述べていること

① 理解　　：自身の感情への気づき 、逆転移への理解

② 面接中の扱い：行動化しない 、面接の素材として位置づける

③ 面接後の対応：スーパービジョン、ケースカンファレンスなどで振り返る

C　問 1

地域精神保健における一次予防と二次予防についてそれぞれ説明しなさい。また，地域や学校などのコミュニティにおいて実施される一次予防としての「心の健康教育（心理教育）」が，住民や児童生徒のメンタルヘルスの維持・増進にどのように役立つかについて述べなさい。

一次予防とは，精神疾患や心理的問題の発生そのものを未然に防ぐための取り組みであり，健康増進やストレス対処能力（コーピング）の向上，生活環境の改善などを通して，心の健康を維持・促進することを目的とする。一方，二次予防とは，精神的問題や精神疾患を早期に発見し，早期に介入・治療することによって，重症化や慢性化を防ぐ取り組みである。

一次予防としての心の健康教育（心理教育）は，地域や学校などのコミュニティにおいて，ストレスマネジメント，セルフケア，リラクセーション，レジリエンスの育成，SOS の出し方や援助希求行動に関する教育などを行うことで，精神的不調の予防に寄与する。また，メンタルヘルスに関する正しい知識を普及させることにより，精神疾患に対する偏見（スティグマ）の軽減や早期相談につながり，結果として二次予防を促進する効果も期待される。

C　問 2

地域支援におけるコンサルテーションについて説明しなさい。また，心理職が保健師，教師，福祉職員などの他職種と連携して地域支援を行う際，コンサルテーションが必要とされる理由について述べなさい。

コンサルテーションとは，心理職などの専門家が，教師，保健師，福祉職員などの対人援助職からの相談に応じ，クライエントへの支援方法や問題解決について助言・支援を行う間接援助の方法である。その目的は，クライエントへの支援を充実させるだけでなく，対人援助職自身の知識や技能を向上させ，支援能力を高めることにもある。

地域支援では，心理職だけで全ての住民に直接支援を提供することは困難であるため，地域住民と日常的に関わる保健師や教師，福祉職員などへのコンサルテーションが重要となる。コンサルテーションを通して多職種の支援力が向上することで，地域全体の支援体制や支援ネットワークが強化され，より多くの住民へ継続的な心理支援を提供することが可能となる。また，対人援助職の心理的負担やバーンアウトを軽減するとともに，問題の早期発見・早期対応や予防的支援にもつながる。さらに，多職種協働や地域資源の活用を促進し，コミュニティ全体の援助機能やエンパワメントを高める点でも重要な意義を有している。